

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾





塾長 倉持 基

■ 塾長コメント ■

塾長である私は東京出身ですが、本業は長崎の古写真研究（私たちの研究グループでは「歴史写真学」と呼称）を専門とする大学教員のため、長崎にはいずれ恩返しがしたいと学生の頃から常々考えていました。また、私は渋谷区のコミュニティFM「渋谷のラジオ」の番組『渋谷龍馬会』でパーソナリティを務めています。そのため、私は職業柄、長崎と関わりのある歴史上の人物のご子孫に知り合いが多く、更に歴史関係の研究者やエンターテインメント系の協力者も多いことから、“歴史・文化×情報発信”をコンセプトに、情報発信の中心地である渋谷から、一般的にはあまり知られていない江戸/東京における長崎の歴史・文化を発信し、東京にお住まいの方々には東京から遠く離れている長崎を身近に感じてもらうとともに、長崎出身の方々へは郷土愛を呼び覚まし、また、今まで長崎と繋がりのなかった人たちには長崎に興味や親しみを持ってもらい、実際に長崎を訪れるきっかけなることを願って「渋谷・長崎歴史文化情報発信塾」を企画しました。

■ 塾の目的 ■

本塾は、地域の歴史と文化を掘り下げ、それを広く発信することを目的に活動していま

す。また、長崎と東京という、地理的には遠く離れた二つの地域の歴史的つながりや文化的交流に焦点を当て、両地域の魅力を再発見し、それを未来へと伝える架け橋となることを目指しています。

■ 塾の研究・活動内容 ■

昨年度の本塾は、近代以前に長崎に生まれ、江戸/東京に足跡を残した歴史的人物」を研究対象とし、成果物としてその中の6名に関する冊子を作成しましたが、本年度は、主に長崎外に生まれて長崎で成長し（ここでいう「成長」とは、長崎で学んだり技を磨いたり、商売に励んで名を広めたり評価を上げたりしたことを意味します）、その後、江戸/東京で足跡を残した歴史上の人物に関する経歴や事象、出来事、ゆかりの場所・土地を調べ、記述して情報化し、成果物（冊子）にまとめていくという作業を行いました。なお、本塾では、長崎で成長した人物を“長崎育ち”の人物と定義づけています。

本年度の塾活動では、江戸時代から近代にかけての長崎の存在価値を多角的に分析するとともに、現代における長崎と江戸/東京の歴史・文化交流の可能性についても探究しました。特に、江戸時代の長崎を通じた情報の流れや、江戸/東京における海外文化の受容と発展のプロセスに注目し、それぞれの地域が人物を通してどのように歴史の中で相互に影響を及ぼし合ってきたのかを検討しました。

また、本年度はフィールドワークや資料調査を通じて、新たな史実や文化的背景を明らかにすることにも努めました。“長崎育ち”の偉人たちの長崎における異文化交流に関する資料を精査し、明治以降の東京における外国文化との接点を調査しました。その結果、

両地域のつながりが単なる一時的な交流ではなく、時代を越えて多層的に継続していることが明らかになりました。

さらに、本塾では研究成果を地域社会と共有することを重要視し、コミュニティFMやオンライン活動を通じて広く情報発信に努めました。特に、若い世代に対して歴史や文化への関心を持ってもらうためのワークショップを開催し、参加者とともに学びの場を作ることができました。

今後の活動の方向性としては、長崎・東京でさらに多くの方々と連携し、歴史や文化に関心を持つ人々のネットワークを広げること为目标としています。また、国際的な視点からも長崎と東京の交流を考察し、日本と海外の歴史的関係についての理解を深めていく予定です。地域の歴史を掘り下げることで、現代社会における新たな価値を見出し、それを次世代に継承することが、本塾の果たすべき役割であると確信しています。

■ 塾活動の成果 ■

本年度の塾活動は、最初に本年度の塾の目的と方法を塾長と塾生との間で共有化し、さらに塾生の関心事と今後のスケジュールの確認作業を行い、本年度の塾の目的に合致する歴史上の人物の選定作業から始め、人物が出揃ったところで、それらの人物の資料・情報の収集を開始しました。

そして、本年度の研究対象人物の調査・資料収集を行う一方で、昨年度の成果物で取り上げた人物の記述内容のブラッシュアップ作業も同時並行で行い、既に記述された情報に磨きをかけ、その後見つかった資料や情報を追加・整理すると共に、引き続き地域を歩いてフィールドワークも行いました。

さらに、昨年度・本年度とスポットを当てた長崎偉人と、まだ研究対象にはなっていない他の多くの長崎偉人たちの江戸/東京での足跡を示すマップを作成し、東京23区別に住所・最寄り駅・位置を記述しました。これは、東京には多くの長崎所縁の地があることを認識してもらい、長崎に思いを馳せ、その地を実際に訪れてもらうことを目的としています。

以上のような調査・研究活動の結果、次のような結論に至りました。長崎は江戸時代、日本で唯一海外との窓口を持つ都市として発展しましたが、出島を通じてオランダや中国との交易が行われ、医学・科学・芸術など、多くの西洋文化がこの地から日本に伝えられました。一方、江戸や明治期の東京では、長崎を経由してもたらされた西洋文化が吸収され、都市の発展や近代化に大きく寄与しました。例えば、蘭学者たちが長崎で得た知識を江戸や東京へ持ち帰り、日本の近代医学の発展に貢献したことはよく知られています。また、美術や音楽、建築といった文化の領域でも、長崎を起点とする影響が見られます。江戸/東京が受けた長崎の歴史や文化、それを橋渡ししたもののこそ、昨年度そして本年度の本塾で研究対象としたような歴史上の偉人たちであったということを強く実感することができました。

最後に、本塾の活動を支えてくださった関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。本塾は来年度も活動を継続し、さらなる発見と発信を続けていく所存です。これからも、長崎と東京の歴史的・文化的なつながりを深めるための研究やイベントを企画し、多くの方々とともに学びの場を広げていきたいと考えています。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 6 年		
5 月 21 日 (火)	リモート	長崎伝習所開所式にリモートで参加。
5 月 25 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	第 1 回塾会議：塾の目的や活動内容の確認、役割分担の決定。
6 月 15 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	講演会：西洋流火術鉄砲隊保存会（高島流砲術）会長の勝田真幸さんを講師にお迎えしての講演会。講演後には勝田さんと塾生とで質疑応答。
7 月 20 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：6 月の定例会で塾生に出した宿題「今年度の当塾で取り上げていきたい人物や場所」について、塾生に報告してもらう。また、その報告に対する質疑応答や討論を行った。
8 月 10 日 (土)	新宿ビルディング（貸会議室）	ミーティング兼役員会：成果物（冊子）に取り上げる人物について、役員で選考。
8 月 17 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	講演会：榎本武揚玄孫・榎本隆一郎さんを講師にお迎えしての講演会。講演後には榎本さんと塾生とで質疑応答。
8 月 26 日 (月)	新宿アイランドタワー（貸会議室）	ミーティング兼役員会：9 月に行うフィールドワークに関する打合せ。資料の検討や案内人の手配など。
9 月 21 日 (土)	中央区築地周辺	中央区築地周辺の長崎人ゆかりの場所のフィールドワークに参加塾生全員で行う。
10 月 16 日 (水)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店（貸会議室）	ミーティング兼役員会：収集した資料や撮影した写真の整理作業、および次回定例会の内容を検討。
10 月 26 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：9 月のフィールドワークの報告と、本年度の成果物（冊子）で取り上げる歴史上の人物とその担当者を決定。
11 月 30 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：本年度の成果物（冊子）で主に取り上げる歴史上の人物について執筆を担当する各担当者に、資料・情報の収集状況や執筆状況など、各担当者から現時点での途中経過を報告してもらい、今後の対応策について話し合う。また、2025 年 3 月に開催される今年度の長崎伝習所まつりにおける当塾の企画について、塾生からの意見を聞く。
12 月 14 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。

日 時	場 所	内 容
令和 7 年		
1 月 13 日(土)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店 （貸会議室）	ミーティング兼役員会：今後の冊子制作と編集作業に関する打合せ。
1 月 18 日(月)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：前月とは別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
2 月 1 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：前月、前々月とは別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
2 月 15 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：さらに別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
3 月 1 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：成果物（冊子）掲載文の最終チェックと長崎伝習所まつりの当塾ブースで行う展示、映像、トークなどのチェックを行う。また、研究成果報告書に関する討議も実施する。
3 月 8 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：長崎伝習所まつりの当塾ブースで行う展示、映像、トークなどの最終チェック、および研究成果報告書に関する最終チェックを行う。
3 月 15 日(土)	ベルナード観光通り（長崎）	長崎伝習所まつりに参加。
3 月 22 日(土)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店 （貸会議室）	ミーティング兼役員会：長崎伝習所まつりの報告、成果物（冊子）の配布状況の確認、予算執行状況の確認などを行う。
3 月 30 日(日)	渋谷区桜丘	渋谷桜丘桜まつりで研究発表。

● 本年度の成果物『長崎偉人の江戸・東京開花(2024年度版)』について

本年度は、主に「長崎外に生まれて長崎で成長した人物（長崎で学んだり技を磨いたり、商売に励んで名を広めたり評価を上げたりした人物＝長崎育ちの人物）」に着目し、彼らの生涯や功績を詳しく調査することにしました。具体的には、日本初の産科医である楠本イネ（1827～1903）、土佐藩出身の政治家である佐々木高行（1830～1910）、長崎で海援隊を結成した坂本龍馬（1836～67）、長崎海軍伝習所の二期生である榎本武揚（1836～1908）、長崎を拠点に事業を展開したトーマス・ブレーク・グラバー（1838～1911）、石川島造船所の創立者である平野富二（1846～92）、日本の近代女子教育の第一人者である石井筆子（1861～1944）、長崎出身の実業家である梅屋庄吉（1869～1934）、そして日本で初めて国際的な名声をつかんだオペラ歌手である三浦環（1884～1946）の9名に焦点を当て、研究対象としました。これらの人物がどのように長崎での経験を糧にし、それぞれの分野で輝かしい業績を挙げて東京に足跡を残したのかを探ることを目的とし、成果物としての冊子を制作しました。なお、平野富二、石井筆子、梅屋庄吉については長崎生まれであるため（石井筆子は大村藩出身）、厳密には本年度の研究対象とは異なりますが、塾生の関心の高さや“長崎育ち”という視点を重視し、特別に研究対象に加えることとしました。

それぞれの人物の足跡と功績の詳細については、本塾が発行した冊子『長崎偉人の江戸・東京開花(2024年度版)』に掲載されています。本冊子では、各偉人の生涯や業績を多角的に分析し、当時の社会背景とともに詳しく解説しています。内容は次の通りです（括弧内は執筆者）。

1. はじめに（倉持基）
2. “長崎育ち”の偉人たち(1)…楠本イネ（朝長修、中村奈美、佐藤正子）
3. “長崎育ち”の偉人たち(2)…佐々木高行（末松康春）
4. “長崎育ち”の偉人たち(3)…坂本龍馬（倉持基）
5. “長崎育ち”の偉人たち(4)…榎本武揚（榎本隆一郎）
6. “長崎育ち”の偉人たち(5)…トーマス・ブレーク・グラバー（小曽根淳二）
7. “長崎育ち”の偉人たち(6)…平野富二（本間一之）
8. “長崎育ち”の偉人たち(7)…石井筆子（高山美枝子、佐々木信子）
9. “長崎育ち”の偉人たち(8)…梅屋庄吉（倉知志帆）
10. “長崎育ち”の偉人たち(9)…三浦環（斎藤達章）
11. 終わりに（小曽根淳二）

次頁から、『長崎偉人の江戸・東京開花（2024年度）』に書かれた内容を基に作成された研究成果発表用のポスターをご覧ください、研究成果の一片を垣間見ていただければと存じます。なお、研究成果発表用のポスターは、本塾塾生の上田佳代子さんにデザインや構成にも工夫を凝らしながら丁寧に作成していただきました。

- 『長崎偉人の江戸・東京開花（2024年度版）』表紙

長崎偉人の江戸・東京開花

幕末～昭和！ 日本の近代化・文明開化に功績を残した“長崎育ち”の偉人たちと東京における足跡

2024年度版



長崎伝習所・東京塾
渋谷・長崎歴史文化情報発信塾

● 楠本イネ①



(1827年～1903年)

シーボルトの娘 女性初の産婦人科医として歩んだ道

楠本イネは、シーボルトと長崎の商家俵屋の娘、瀧（たき）の間に生まれました。出生地は現在の長崎市銅座町です。楠本イネは、女性初の西洋医学を学んだ産婦人科医です。若い頃から医学に興味を持ち、1840年14歳から宇和島藩卯之町（現在の西予市宇和町）の二宮敬作の元で学び、19歳からは岡山で産科修行を積みました。25歳で帰郷後、産科医として活動し、女性医師としての道を切り開きました。シーボルトの再来日を機に医学の研鑽を重ね、長崎や東京で診療を行い、明治天皇の第一王子の誕生に立ち会うなど、広く活躍しました。多くの困難を乗り越えたイネは、女性医師として日本の医学の発展に大きな貢献を果たしています。

鳴滝塾

1823年オランダ商館医として長崎に赴任したドイツ人医師、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは鳴滝塾を開き、塾生に西洋医学を伝授しました。1877年楠本イネ（51歳）の頃、亡父の鳴滝塾が壊されたことを知り、その後鳴滝の土地の確保と保存に尽力しました。現在長崎市営のシーボルト記念館が建っているのはイネの功績でしょう。



イネ、母、恩師の二宮敬作の功績をたたえた
顕彰碑長崎市鳴滝寺（2024年、本間一之氏撮影）

楠 本 イ ネ

文：
朝長 修

（ともながクリニック代表）

中村奈美

（渋谷・長崎歴史文化情報
発信塾 事務局長）

佐藤 正子

長崎縁の
偉人たち1

● 楠本イネ②

長崎縁の
偉人たち1

楠本イネ

シーボルトの娘
女性初の産婦人科医として歩んだ道

INE

長崎さるく



長崎市 シーボルト記念館
崎港塾跡（シーボルト宅跡）



長崎市 国台寺



いね宮内省御用かけ依頼書類：シーボルト 記念館



長崎市 シーボルト像



東京築地 シーボルト像

東京さるく



明治22年（1889）62歳～
麻布区我善坊町25番地寄留
六本木一丁目駅建設中付近、麻布台
ヒルズレジデンス・サウジアラビア
大使館付近



明治24年（1891）5月64歳～
麻布区麻布仲ノ町6番地
＜異母弟の男爵ハインリッヒの自邸へ＞
先にイネと周三が移り、後に高子・長女たき、次
女種も同居。高子（当時39歳）は事曲中心の生活
を送り、周三（当時17歳）、たき（当時8歳）、
種（当時4歳）の養育には主としてイネがあたっ
たと考えられます



明治36年（1903）～明治36年（1903）
8月26日76歳麻布区飯倉片町28番
現在の港区六本木五丁目エリア。麻布テ
ラスアパート付近。イネの終焉の地明
治36年（1903）8月26日午後8時過ぎ、
楠本イネは食あたりにより死去。高子の
回想では、「母イネは鰻を食べ、その後
に水瓜（スイカ）を食べたことで食あた
りを起こし、それが死因となった」とあ
りました



● 佐々木高行①



(1830年～1910年)

龍馬と共に駆け、明治を支えた男

佐々木高行は、土佐藩出身の政治家であり、幕末から明治にかけて日本の近代化に尽力した人物である。藩政を支え、坂本龍馬や後藤象二郎とともに大政奉還の実現に関わった。長崎では大監察として外国との交渉を行い、いろは丸事件やイカルス号事件の対応に奔走した。

明治維新後は、新政府の司法行政を担い、岩倉使節団の一員として欧米諸国を視察。帰国後は天皇親政の実現を目指し、侍補として明治天皇の補佐役を務めた。特に、大久保利通の暗殺後は、天皇との直接対話を重視し、政治的な発言力を強めた。晩年は元老院副議長として国政に影響を与え続け、明治天皇の厚い信頼を得た。彼の生涯は、維新の理想と天皇親政の実現を追い求めた道のりであった。

佐々木大將軍と呼ばれて

幕末、長崎で頻発する外国人とのトラブル対応に奔走していた佐々木高行。坂本龍馬は彼を「佐々木大將軍」と呼び、いろは丸事件や大政奉還に関する相談を持ちかけた。特に、龍馬が暗殺された後も佐々木は海援隊を支え、土佐藩の財政を使って隊士たちを救済した。激動の時代において、龍馬の影の支えとなった名参謀の存在はあまり知られていない。



左 末松康春 中央 佐々木（末松） 志賀子 右 末松正春

佐々木高行

TAKAYUKI

文：末松康春
(佐々木高行玄孫)

長崎縁の
偉人たち2

● 佐々木高行②

長崎縁の
偉人たち2

佐々木 高行

TAKAYUKI



(1830年～1910年)



佐々木高行



伊藤博文(左)と佐々木高行



伊藤生子/末松謙澄



あらすじ

- 1 土佐の佐々木家は源氏の嫡流にあたる
- 2 佐々木高行誕生、山内豊信（容堂）の側近となる
- 3 長崎 坂本龍馬と佐々木高行
 - (1) 佐々木大將軍
 - (2) いろは丸事件
 - (3) イカルス号事件
- 4 龍馬の死後 佐々木が長崎を守る
- 5 新政府に参加
 - (1) 長崎裁判所参謀助
 - (2) 司法行政上の功績役に
- 6 岩倉使節団の随員に
- 7 佐々木の帰郷命令
- 8 天皇親政運動
- 9 佐々木と伊藤のバトル
- 10 晩年

あとがき

佐々木高行は、土佐の出でありながら、幼少期に極貧の生活を経験したため、庶民の暮らしに深い関心を持ち、政治においても国民の生活を大切に考えていた。

私生活でもその姿勢は変わらず、伊藤博文の女婿である末松謙澄（筆者・末松康春の曾祖父）が豊前（現在の行橋市）から仕事を求めて上京した際、極貧の生活を送っていた彼を書生として迎え、学資を含め全面的に支援した。さらに、佐々木の次女・静衛が東京大学の敷地内にあったフルベッキの家で英語を学ぶ際、謙澄は用心棒として同行。その家には高橋是清が寄宿しており、静衛のレッスンの合間に、是清が謙澄に英語を、謙澄が是清に漢文を教えるという「交換教授」の機会が生まれた。この縁もまた、佐々木が取り持ったと言えるだろう。

さらに、佐々木と伊藤博文は、天皇親政を巡り激しく対立したが、後にその孫同士が結婚するという歴史の巡り合わせがあった。佐々木高行の次男・高志の四女・志賀子と、伊藤博文の次女・生子と結婚した末松謙澄の養子・末松春彦が夫婦となり、佐々木と伊藤は縁者となったのである。筆者自身も少年時代、練馬で祖父母と生活を共にした。祖母の志賀子は佐々木高行の気質を受け継いでか、「常磐会」で「怪物」と呼ばれ、80歳を過ぎても三笠宮様とアイスダンスを楽しみ、エレクトーンでカンツォーネやタンゴを弾くなど、ハイカラな人物だった。一方、祖父・春彦は日銀に勤め、酒を一滴も飲まず、孫とキャッチボールをするという優等生的な生活を送っていた。筆者が小学生の頃、祖母のエレクトーンで流れていた「ボラーレ」や「真珠採りの歌」は、今も鮮明に記憶に残っている。



末松康春

● 坂本龍馬①



(1836年～1867年)

坂本龍馬と長崎—日本の未来を描いた地

坂本龍馬にとって長崎は、夢を形にする場所だった。1865年、彼は日本初の商社「亀山社中」を長崎に設立し、武器や物資を調達しながら、幕末の動乱を乗り越えるための土台を築いた。ここで薩摩藩や長州藩と結びつきを強め、のちに薩長同盟の成立へとつなげる。さらには、長崎の貿易ネットワークを活かし、日本の海運業の発展を目指した。異国の文化と触れ合いながら、龍馬は新しい日本の姿を思い描いていたのかもしれない。

坂本龍馬は、江戸で剣術修行を通じて自信と思想を育み、ペリー来航で国際情勢を痛感。長崎では亀山社中を設立し、貿易で経済的自立を追求。薩長同盟の仲介や大政奉還を主導し、幕藩体制の転換に尽力した。江戸と長崎は、彼が志士たちと連携し近代化ビジョンを具体化する舞台となった。暗殺後、その思想は新政府に継承され、日本の近代化の礎となった。

坂本龍馬

RYOMA

文：倉持基
渋谷・長崎歴史文化
情報発信塾 塾長

長崎縁の
偉人たち3

● 坂本龍馬②

長崎縁の
偉人たち3

坂本 龍馬



風頭公園 坂本龍馬之像

略年譜

誕生と幼少期（1836 年～1853 年）

天保 6 年（1835）、土佐藩（現在の高知県）にて郷土の家生まれる。幼少期は病弱だったが、剣術や学問に興味を示す。

江戸への剣術修行（1853 年～1854 年）

嘉永 6 年（1853）、江戸へ出て千葉道場で剣術を学ぶ。黒船来航を目の当たりにし、外国の脅威を実感。

土佐藩での活動と脱藩（1854 年～1862 年）

土佐に戻り、武市瑞山らと交流。文久 2 年（1862）、土佐藩を脱藩し、志士として活動を開始。

勝海舟との出会いと海軍操練所（1862 年～1864 年）

勝海舟と出会い、その影響を受ける。神戸海軍操練所で海軍技術を学ぶ。

亀山社中の設立（1865 年）

長崎にて亀山社中（後の海援隊）を設立。貿易や武器調達を通じて倒幕運動を支援。

薩長同盟の仲介（1866 年）

薩摩藩と長州藩の間を奔走し、薩長同盟を成立させる。倒幕運動の重要な転機となる。

船中八策の提唱（1867 年）

新国家の基本方針として「船中八策」を提唱。のちの明治政府の政策に影響を与える。

大政奉還の実現（1867 年）

徳川慶喜に大政奉還を進言し、実現させる。江戸幕府の終焉と新たな政治体制の構築を目指す。

近江屋事件と暗殺（1867 年）

慶応 3 年（1867）11 月 15 日、京都の近江屋にて暗殺される。暗殺の背景には諸説あり、未だに謎が多い。死後の影響と評価坂本龍馬の思想や行動は、明治維新後の日本に大きな影響を与える。後世において、自由で革新的な人物として高く評価される。



RYOMA

● 榎本武揚①



(1836年～1908年)

武揚の足跡をたどる ～東京都内のスポット～

幕末から明治にかけて「一生で二度輝いた男」と称される榎本武揚。幕臣として戊辰戦争を戦い、箱館戦争で五稜郭に立てこもった彼は、降伏後に投獄されながらも助命され、明治政府で外交官や大臣として活躍しました。

江戸・下谷三味線堀で生まれた武揚は、昌平坂学問所で学び、オランダに留学して海軍技術を得。帰国後、最新鋭艦・開陽丸を率いて戦いました。投獄生活では科学論文を執筆し、釈放後は北海道開拓や樺太・千島交換条約の交渉など国の発展に尽力しました。東京都内には、彼の足跡をたどれるスポットが点在しています。湯島聖堂（昌平坂学問所跡）、築地の軍艦操練所跡、東京農業大学開校の地、向島百花園、榎本武揚旧居跡、吉祥寺（墓所）などが代表的です。

長崎海軍伝習所と榎本武揚

幕府は海軍力強化のため、安政2年（1855）に長崎海軍伝習所を開設。榎本武揚も入所を志すが年齢制限で聴講生となり、翌年正式に入校。伝習所では後にオランダの海軍大臣となるカッテンディーケが指導し、武揚はその熱意を高く評価された。ここで培われた知識と経験が、日本初の海軍中將となる武揚の礎となった。



開陽丸

開陽丸青少年センター

榎本武揚

TAKAKI

文：榎本隆一郎
（榎本武揚玄孫）

長崎縁の
偉人たち4

● 榎本武揚②

長崎縁の
偉人たち4

榎本 武揚

TAKEAKI



オランダから開陽丸で持ち帰った通信機。
《ディニエ製モールス印字通信機》



五稜郭全体像/中央が箱館奉行所

長崎さるく

長崎海軍伝習所は、長崎県長崎市江戸町（現在の長崎県庁付近）にありました。安政2年(1855)から同6年まで、2期4年にわたって伝習が行われています。

東京さるく

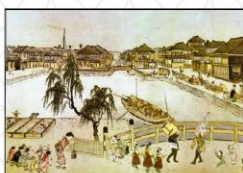
◆東京農業大学の前身 徳川育英堂
明治18年（1885）武揚は旧幕臣の子弟を救済することを目的とした奨学金を支給しようと考えて、徳川育英会を作ります。明治24年（1891）になると、飯田橋に「育英堂」を設立、当初は農業科、商業科、普通科の3科がありましたが、農業科だけが残り、これが後の東京農業大学となって行きます。



古地図



黒田清隆（左）
榎本武揚の助命嘆願のため、丸坊主にした。



「三味線堀」



北辰社牧場跡



● トーマス・ブレイク・グラバー①



(1838年～1911年)

日本の産業改革を支援

蒸気機関車・蒸気船・炭坑やビール会社の設立へ

トーマス・ブレイク・グラバー（1838年生）は、スコットランド出身の商人で、長崎で日本の近代化に大きな貢献をした人物です。海軍大尉で沿岸警備隊隊長の父トーマス・ペリー・グラバーの5男。1859年に上海へ渡り、当時東アジア最大の商社ジャーディン・マセソン商会に勤務。同年9月に来崎し出島商館の2階に住む。その後23歳でグラバー商会を設立。ジャーディン・マセソン商会の長崎代理店となる。生糸・茶の輸出などの貿易商、武器・弾薬・戦艦などの輸入販売等を行い明治維新後は倒産。その後経済人として活躍し、41歳で三菱の顧問。又、『鹿鳴館』の外国人の名誉書記官も務める。日本初の蒸気機関車や蒸気船の修理所を開設。さらに、高島炭坑や日本初のビール会社の設立にも関わり、日本の産業革命を支援しました。彼はまた、薩摩藩や長州藩の留学支援も行い、明治時代の日本の発展に多大な影響を与えました。

東京での足跡

晩年は東京に住み、様々な企業活動を支援。明治21年(1888)港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる。明治33年(1904)現在の港区麻布に自宅を建築、一部は伊藤博文より寄贈。1911年、73歳で死去。長崎市坂本国際墓地に妻ツル、息子の倉場富三郎夫妻とならんで眠る。



トーマス・ブレイク・グラバー
THOMAS

文：小曾根淳二
(小曾根乾堂の子孫)

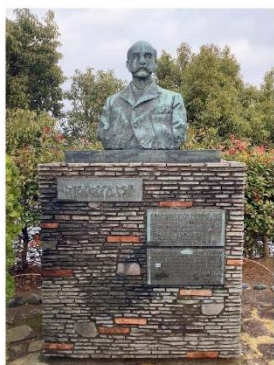
長崎縁の
偉人達5

● トーマス・ブレイク・グラバー②

長崎縁の
偉人たち5

トーマス・ブレイク ・グラバー

THOMAS



関東さるく



京長崎歴史文化博物館蔵

明治21年(1888)

港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる
※東京府知事宛ての外国人備入届より(三菱資料館蔵)現在の都立芝公園テニスコートがあるあたり。

明治21年(1888)

港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる ※東京府知事宛ての外国人備入届より(三菱資料館蔵) 現在の都立芝公園テニスコートがあるあたり。

明治37年(1908) 勳二等旭日重光章を受章

明治41年(1911) 12月16日

73歳で、麻布邸宅で亡くなる。死後麻布の邸宅は松平春嶽の3男松平慶民に売却し、その後三陽商会の施設となる。

日光のグラバー別荘地跡

明治25年(1892) 日光市西六番園地に別荘を建てる。
湯川に日本で初めて米国産のカワマス(カワマス)を、グラバーが釣りを
楽しむため全額負担して放流する。



● 平野富二①



(1846年～1892年)

～産業の礎を築いた男～ 活版印刷事業 本木昌造を恩師として

長崎出身の実業家で、造船や活版印刷など日本の近代産業発展に貢献しました。彼は幕末に長崎製鉄所で技術を学び、その後、活版印刷事業を成功に導きます。さらに、日本初の民営造船所「石川島平野造船所」（現在のIHIの前身）を創設し、軍艦「鳥海」の建造を成し遂げました。しかし、その功績に反して地元での知名度は低く、本木昌造の影に隠れたことや戦前の社会的背景が影響していると考えられます。長崎から全国へ飛び立ち、日本の重工業の礎を築いた彼の偉業を、今こそ見直す時ではないでしょうか。

八丈島への漂流だけではなく 坂本龍馬と共に拘留される

長崎製鉄所時代、師・本木昌造と共に蒸気船で航海中、激しい嵐に遭遇し八丈島へ漂流。命からがら助かった二人は、この経験を機にさらに絆を深めた。若き平野富二の波乱万丈な人生的一幕である。さらに、22歳では、坂本龍馬とともにイカルス号事件の嫌疑で拘留された経験も持つ。



TOMIJI

平野富二

文：本間一之

長崎縁の
偉人達6

● 平野富二②



平野 富二

TOMIJI



近代活版印刷発祥之地
新町活版所跡石碑
(長崎市興善町)



「平野富二 生誕之地」碑
(長崎市桜町9番6号)



出典：後記1※一部加工 (矢印の先が石川島)

【平野富二年表】①長崎時代(生誕から長崎製鉄所退職迄)

年齢	西暦(和暦)	富二の動向	関連事項
1歳	1846年(弘化3)	・父次郎富次郎(後の平野富二) 8/14誕生	・本木昌造23歳
2歳	1848年(嘉永元)	・父 豊三郎富次郎(4月)	
3歳	1850年(嘉永2)	・豊三郎の半蔵に受け継がれる	・石川島造船所創業
10歳	1855年(嘉永7)	・長崎海軍伝習所開設	
12歳	1857年(安政4)	・長崎海軍伝習所方官用書付けられる	・長崎製鉄所建設着手
15歳	1860年(万延元)		・本木昌造、長崎製鉄所使用人となる
16歳	1861年(文久元)	・長崎製鉄所機関方見習いとなり機械学習得へ、ムンハンザードの所掌機関の配付伝習に参加	・長崎製鉄所完成(長崎製鉄所)
18歳	1863年(文久3)	・チャールズ号で大坂へ初航海(4月) ※船長:本木昌造 / 機関手:本木昌造 ・西行書次郎となる(西行伝習所と書次郎)	
19歳	1864年(元治元)	・ウィリアム号で八丈島に渡来(11月) ※船長:本木昌造 / 機関手:西行書次郎	
21歳	1866年(慶応2)	・長崎造船所機関方見習い(「国」の1等機関方へ) ・奉命から海軍所一等機関手の内定を受け ・半蔵の半蔵となる	
22歳	1867年(慶応3)	・土佐藩の密航船機関方に雇われる(3月) ・イギリス等事件の参考人として勾留(6-9月) ・土佐藩の密航船機関方の任を解かれる(11月)	・イギリス等事件(7/5) ・地主書次郎(11/15)
23歳	1868年(明治元)	・長崎造船所一等機関手として「船橋丸」に搭乗	・本木昌造、長崎製鉄所機関方見習い ・渡輪(くろがね丸)を運搬
24歳	1869年(明治2)	・小菅造船所の初代所長に任命される(3月) ・長崎造船所元帥伝習所に配属(9月) ・立神町造船所建設のトック郡立に移住する(11月)	・長崎造船所行旅所 ・船橋丸の設立 ・本木昌造が長崎造船所機関方見習い ・新築船塀完成
25歳	1870年(明治3)	・長崎造船所大工部主の山崎三郎の重役で不正経理発見 ・長崎造船所大工部主、長崎造船所大工部主小菅造船所長に任命される(10月)	・本木昌造、新築造船所を新築船塀内に創業
26歳	1871年(明治4)	・長崎造船所大工部主の山崎三郎の重役で不正経理発見 ・長崎造船所大工部主、長崎造船所大工部主小菅造船所長に任命される(3月)	



小菅修船場跡

関東さるく



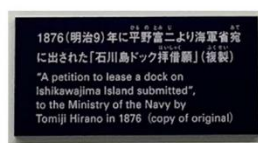
築地の跡地にある活字発祥の碑



旧造船所の敷地はベイエリアの再開発により高層マンションが立ち並びパーシティー21へ変貌を遂げています。当時をしのぶ石川島資料館がビルの一角に設けられています。



長崎製鉄所跡
(長崎市館の浦町)



出典：i-musu (IHI HISTORY MUSEUM)
※一部加工



石川島製鉄所(旧横濱製鉄所)の職員と富二
出典：後記5



横濱製鉄所跡の碑
(JR京浜東北線石川島駅南)

● 石井筆子①



(1861年～1944年)

**いばら路を知りてささげし身にしあれば
いかで撓（たわ）まん撓むべきかは**

幕末・明治・大正・昭和と激動の時代を駆け抜けた、日本近代女子教育者で、石井亮一と共に日本初の知的障害者教育の創始者でもあります。筆子は肥前国大村藩士・渡辺清の長女として生まれました。11歳まで祖父母と大村で育つ。1885年、華族女学校でフランス語教師として教壇に立ち、津田梅子らと共に女子教育の発展に寄与しました。自身の障害児である長女幸子を育てながら、1893年には「静修女学校」の校長に就任。筆子は「大日本婦人教育会」を設立し、男女同権を唱え、女子教育の重要性を訴えました。

筆子は福祉事業にも尽力し、特殊教育部や保母養成部の設立を通じて、社会における障害児の理解と支援を促進。大正皇后をはじめとする多くの支援者のもと、学園を再建し、国立市に移転後も活動を続けました。筆子の愛用の「天使のピアノ」は、文化財としても評価され、映画化もされました。



天使のピアノ

石井筆子愛用のピアノで、1885（明治18）年3月に横浜のドーリング商会が横浜で製造・販売した、日本最古級のピアノです。

石井筆子

FUDEKO

文：高山美枝子
佐々木信子

長崎縁の
偉人達7

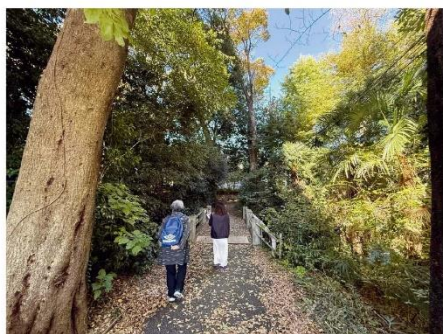
● 石井筆子②

長崎縁の
偉人たち7

石井 筆子

FUDEKO

東京都国立市矢川3丁目16番地1



● 梅屋庄吉①



(1868年～1934年)

孫文を支えた日本人 梅屋庄吉の生涯

梅屋庄吉（うめやしゅうきち）は、明治元年に長崎で生まれ、若くして写真館を開業。1895年、香港で孫文と出会い、「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援す。」と誓いを立て、生涯にわたり孫文の革命を資金面で支え続けました。写真館は革命の拠点となり、清国政府の追及を逃れてシンガポールへ。そこで映画興行に成功し、莫大な資金を孫文に提供しました。

映画事業を拡大し、日本映画界の発展にも尽力。日活の前身となる会社を設立し、教育映画や記録映画を制作しました。辛亥革命成功後も孫文を支え続け、彼の国葬では唯一の日本人として棺を担ぎました。晩年は日中平和のため奔走し、65歳で生涯を閉じました。彼の遺した資金は、現在の価値で1兆円以上とされます。富や名声ではなく、人の心の豊かさを重視した生涯は、まさに「富貴在心」を体現したものでした。

梅屋庄吉と妻・トクの支え合い

庄吉を支えたのが、気丈で愛情深い妻・トクでした。庄吉が孫文の革命や大陸浪人の支援に没頭し、家計が苦しくなっても、不平を言わず支え続けました。孤児や犯罪者を引き取る夫の行動にも、「愛を知らない人には、神のような心で接するべき」と、献身的に世話をしました。さらに、孫文と宗慶齡の結婚を後押ししたのもトク。庄吉とトクの深い信念と行動力が、多くの人々の人生に影響を与えたのです。

梅屋庄吉

SHOKIGHI

文:倉知志帆

長崎縁の
偉人達8

● 梅屋庄吉②

関東さるく

梅屋 庄吉

長崎縁の
偉人たち8

明治 38 年 1905 年 6 月 庄吉は本格的に映画ビジネスに参入するため帰国し上京します。**ここで関東の足跡を辿るツアーのスタートです！**

当時の映画は「活動写真」と呼ばれ、まだ常設館は無く、輸入物を各地の芝居小屋を廻って興行するスタイルでした。無声映画なので、弁士がストーリーを説明しました。庄吉は会社名を「M・パテー商会」としました。フランスの映画会社「パテー」の名を借用、一見親戚かと錯覚させる巧妙なネーミングです。まずは明治 39 年 7 月第一回興行を打った 築地新富座。明治 11 年に再建された歌舞伎の近代劇場第一弾。照明にガス灯を用い、市川團十郎や尾上菊五郎など名優が興行し、通り一帯まるで別世界の芝居町を形成しました。行き方：地下鉄有楽町線・新富町駅 3 番出口すぐ、築地橋を背に平成通り沿い右手に案内板が立っています。跡地は現在都税事務所です。

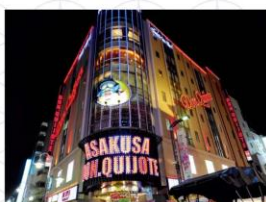


当初の屋敷と社屋（麹町 3 番町 63）事務所、現像所、弁士や楽士の養成所などを設け、その一帯は、「M パテー横町」と言われるほど活気がありました。現在の千代田区九段北・一口坂（いもあらざか）です。靖国神社の社殿の裏、西に面する一角が当時の麹町 3 丁目です。



現在はテニスコートや教会が建っています

邸宅と映画スタジオを建設。場所は多摩郡大久保村大字百人町 350 番地で、現在の住所にすると新宿区百人町 2 丁目 23 番地になります。大理石の門柱 4 本を備えた豪華な門、撮影所と邸宅の間は築山や庄吉の趣味の盆栽棚で隔てられ、自宅は十数室もある広大な邸宅で、試写室や当時は珍しい自家用車のための車庫もありました



④浅草の M パテー常設映画館・大勝館の夜の部を貸し切り、庄吉自ら編集した辛亥革命の記録映画を、孫文のためだけに上映しました。長江沿いを勇ましく行進する革命軍、戦場で炎上する市街地・・・蜂起の際アメリカにいて革命の現場にいなかった孫文は、感激して繰り返し上映を求めました。フィルムは友情の証としてその場で孫文に贈られ、大ヒット間違い無しにも関わらず、日本で一度も公開されることはありませんでした。（現在、フィルムは中国中央電視台に保管。）

⑤日比谷松本楼庄吉馴染みのレストランで、亡命中の孫文を日本の名士各位に紹介するために幾度も宴会を催しました。庄吉の資料を受け継いだ孫・主和子（すわこ）氏が、日比谷松本楼を経営する小坂家に嫁いだため、ここに資料が保存され一部がロビーに常設展示されています。目を引くのは孫文の妻で宗家の三姉妹の次女慶齡が愛用したピアノです。



千葉県いすみ市

⑥梅屋庄吉別荘跡地と愛用の井戸大正 6 年 1917 年建設 1 万 5000 坪、松林に覆われ、2 階からは水平線が見渡せました。残っている写真からすると、和風建築だったようです。実はここで恋の逃避行事件の柳原白蓮を匿っています。駆け落ち相手の龍介は、旧知の大陸浪人・宮崎滔天の息子だったので、新聞沙汰になる前から 2 人のことは知っていたのです。白蓮はお嬢様故に身の回りのことを何一つ自分で出来なかった。生活していく上でのこと 1 から教えたのもトクでした。庄吉はこの別荘で秘密の会議をしばしば行っており、最も頼りにしていた政治家犬養毅を始め、多くの代議士や実業家達が訪れました。孫文は勿論のこと、若き日の蒋介石ら中国革命の志士らも逗留しました。



⑦本寿院に「松清群衆の霊」と刻まれた墓がある。葉外房の海岸に打ち寄せられた身元不明の死者を弔った墓です。裏に「大正十年九月十三日 施主梅屋庄吉建之」と刻まれています。庄吉は香港では客死し無縁仏となった日本人の墓碑を建てていますし、他にも例があります



⑧外房線三門駅

庄吉には胃痛の持病があったそうです。晩年の庄吉は、日中が戦争に至らないようにと、中国との対話を進言するために奔走していました。孫文と誓い合った東洋の平和を守り抜きたかったのでしょう。外相広田弘毅との会談を控え、命を受ければいつでも大陸に渡るつもりでいた、昭和 9 年 11 月 15 日。庄吉は三門駅ホームで倒れ、8 日後に息絶えました。トクに「おまえほど、わしに尽くしてくれたものはなか・・・。」と言い残して。享年 65

● 三浦環①



(1884年～1946年)

日本初の世界的オペラ歌手

三浦環は、日本人初の国際的オペラ歌手であり、特にプッチーニの《蝶々夫人》の蝶々さん役で世界的な名声を得た。東京音楽学校で学び、在学中から音楽の才能を発揮。卒業後、海外で声楽を学び、1915年にロンドンで《蝶々夫人》を演じ、大成功を収めた。以降、欧米を中心に通算2000回以上この役を演じ、作曲家プッチーニからも「最も理想的な蝶々さん」と称賛された。

また、シカゴでは《お菊さん》の主演も務め、日本の文化を海外に広める役割も果たした。戦争の影響で1936年の凱旋公演は中止を余儀なくされたが、彼女の功績は色あせることなく、今も語り継がれている。

晩年は山梨県山中湖村で過ごし、1946年に62歳で死去。その歌声は今も世界中のオペラファンの記憶に残り、日本の音楽史に燦然と輝いている。

元祖”ハイカラさん”の自転車通学

三浦環は東京音楽学校に通う際、当時珍しい英国製の赤い自転車で通学していた。海老茶の袴姿で颯爽と走る姿は話題となり、「自転車美人」として新聞にも取り上げられた。後輩の山田耕筰が通せんぼしてふざけるほどの注目ぶりだった。



山中湖交流プラザきらら

三浦環

TAMAKI

文:斎藤達章

長崎縁の
偉人達9

● 三浦環②

長崎縁の
偉人たち9

三浦環

TAMAKI



プッチーニ像 長崎市南山手町8

山中湖交流プラザきらら・
湿生花苑内「三浦環銅像」
山梨県山中湖村平野



「三浦環の像」長崎市南山手町8

● 塾生の感想

◇ 榎本隆一郎（榎本武揚玄孫）

榎本武揚・五代目子孫として、私なりの（かなり個人的な）武揚像を描いてみました。長崎に関係ない部分は大幅に省いていますので、そこにご興味おありの方は、また別の機会にぜひ、お願いいたします。

◇ 倉知志帆

今回は東京塾ですので、梅屋庄吉さんの関東での足跡とゆかりの地を追ってみました。長崎さるく君が出張でお供してくれました。機会をいただけて、楽しくフィールドワークでき勉強にもなりました。ありがとうございました。

◇ 佐々木信子（上野彦馬曾孫）

昨年の上野彦馬の孤独な作業から、今年はメール、Facebook、LINE で連絡を取りながらの協同作業で、不得手なものはすべて相方にお任せで原稿が仕上がりました。長崎のアメリカ領事館で石井筆子さんがグラント前大統領からいただいたサイン入りの写真、上野写真館撮影の台紙だったかな？と、楽しく想像しています。

◇ 佐藤正子

『龍馬伝』から坂本龍馬・福山雅治ファン～長崎 LOVER に。今年の当塾での目標は「長崎と東京の縁つなぎ」。今年は楠本イネの晩年の住処・麻布・六本木を巡りました。さて、来年はいかに。

◇ 末松康春（佐々木高行玄孫、伊藤博文玄孫、末松謙澄曾孫）

高祖父の佐々木高行については、この機会に勉強させてもらいました。ありがとうございました。

◇ 高山美枝子

久しぶりのグループでの共同作業という時間、楽しかったです。資料館へ行ったり、データをやり取りしたり、お電話でお話ししたり。ご一緒した塾生の方は上野彦馬さんのご子孫の方。若い頃、写真館に勤めていたこと、実家が彦馬さんの生誕地そばだったこともあり、何か時空を超えて繋がれた気がして嬉しかったです。

◇ 中村奈美

昨年は近代工業化の礎を築いた長崎人をとり上げましたが、今年は自身の仕事柄、医学に絡むことを行いたかった。どうしても医学発展には長崎の役割は大きく、特にシーボルトの功績は顕著である。しかし、彼を支えた日本人妻と彼を凌ぐ娘の存在も忘れてはならないと思い、今回テーマに関わらせていただいた。改めて楠本イネを注目してほしいと願う。

◇ 本間一之

地元（故郷）のことを深く知ることは、その地域の活性化や未来へのヒントを見つけることに必ずつながります。長崎伝習所の取り組みはまさにその一環だと思います。機会をいただいた歴代の長崎市長（長崎伝習所総長）および事務局・運営委員会の皆さまへ、この場をお借りして深く感謝申し上げます。そして、この取り組みの継続と発展を切に願っております。

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾

塾長	倉持 基				
1	荒舩 裕子	21	すぎやま ゆうこ	41	
2	稲田 勝次郎	22	高山 美枝子	42	
3	上田 佳代子	23	田中 美枝子	43	
4	榎本 隆一郎	24	辻川 智子	44	
5	岡村 真理	25	朝長 修	45	
6	勝田 真幸	26	中尾 和美	46	
7	官梅 洋子	27	中村 淳	47	
8	木本 志帆	28	中村 直美	48	
9	倉知 志帆	29	中村 奈美	49	
10	幸若 知加子	30	西岡 秀子	50	
11	小曽根 克秀	31	本間 一之	51	
12	小曽根 淳二	32	増田 泰之	52	
13	小沼 百合子	33		53	
14	斎藤 達章	34		54	
15	阪出 清	35		55	
16	佐々木 信子	36		56	
17	佐藤 正子	37		57	
18	柴田 徹郎	38		58	
19	末松 康春	39		59	
20	菅 千歳	40		事務局員	東京事務所 田邊 愛理

